

②自分の事を知ってもらえるという安心感がある。

という意見が一部の人からみられるが一方では、付添い看護婦として、洗濯寝泊り等、いっさいを面倒見てくれるのではないかと、いう声も出てきている。又受持看護婦が夜勤に入ってしまったと、昼間、不安感を訴える人も出てきた。

#### 考 察

実施してまだ日も浅く、私達自身にも受持看護婦という事についての恥かしさがあつたりして、患者さんを充分把握し、良い看護ができるというところまでいかないが、私達自身に少しづつではあるが、看護する喜びが芽生えてきました。

この気持ちを大切に、更に、看護内容を充実していくと共に、看護業務とは何かを検討しつつ方向づけをしていく事を、今後の課題としていきたいと思ひます。

#### 共 通 外 科

### 将来に不安を持った一患者への援助

発表者 中村 秀子

共通外科一同

#### 動 機

下顎悪性腫瘍のため、下顎骨切除、舌1/3切除、気管切開等の手術を受け、手術は一応成功をみたものの、その後の機能等障害により、食餌は経管栄養を余儀なくされ、又気管カニューレ抜去の見通しも暗く、将来に対して不安強く、その上強度の疼痛に悩まされ、暗い毎日となりがちな患者に接し、少しでも希望が持てるように援助できたらと思ひ、この研究にあたりました。

#### 患 者 紹 介

氏 名 ○藤○幸 46才 男性

病 名 下顎悪性腫瘍

入院期間 昭和46年8月17日より現在に至る。

職 業 高校教員のかたわら神主をしている。

家 業 下宿業で経済的には安定している。

家 族 父 63才の時破傷風には死亡

母 67才 5年前より子宮癌にて現在自宅療養中。

妻 45才 健在

子供 20才 男性 会社員

17才 女性 高校生

家は遠いが、協力的である。

性 格 遠慮深く几帳面、医療従事者の言動を信頼する。

既往歴 18才 痔瘻

経過 昭和45年左下顎7番の金属冠の刺激の為か舌縁に疼痛出現、某医にて金属冠除去し疼痛軽減す。昭和46年2月舌の左辺縁、歯肉部に再度疼痛出現、腫瘍を指摘され諏訪日赤にて歯肉切除及びリンパ腺摘出術を受ける。その後創部の治癒悪く皮膚科医の紹介により来院。5月17日下顎悪性腫瘍と診断され入院。ライナック照射3000R行い7月10日一時退院。退院後近医にて治療を続けていたが下顎部から頬部にかけて腫瘍、排膿あり8月17日再入院。再度ライナック照射3600Rを受け10月13日術時間8時間25分、全身麻酔で気管切開、頸部廓清、下顎骨切除、舌1/3切除、腹部より皮膚移植術を受ける。

#### 現症状

- 下顎骨切除の為顔貌に変形がある。
- 左下顎部に口腔内と外との交通がある。
- 気管切開の為筆談中。
- 食餌は鼻腔ゾンデにて経管栄養。
- 左頬部痛強度

#### 看護計画

##### ①第一回カンファレンスに於て

術後創傷の治癒、体力回復を図る為には十分な栄養補給が必要である。しかし経管栄養が続く為、栄養低下をきたしやすく、栄養補給について考える必要がある。

##### 看護活動

少しでも栄養が摂れるようにと食餌変更や毎食の食餌以外に牛乳、卵、粉チーズ、蜂蜜等栄養のあるものを取り入れるよう指導し、又家族にも協力を求めるだけ栄養補給に努めた。そして毎食の食餌摂取量を把握し定期的に体重測定を行い。その目安にしました。その結果一時46Kgに減少した体重も52Kgと徐々に増加するようになりました。食餌注入時の負担については、次第に体力も回復し自分で注入できるようになりました。最初50ccの注射器を使用していたが時間がかかるため注入方法として、イルリガートル法を試みた。しかし以前の注入方法の方が患者も慣れており、それ程負担も感ぜず、見た目もよいとの理由で以前の方法にもどした。だがこれは先端が細いので、さらに太目の注射器に変えてみたところスムーズに注入できるようになった。

食餌に対する満足感がないことについては、経口的摂取ができず、人間の本能が満たされない事は患者にとり大きな悩みであり、その為食餌をすることはかえって苦痛になりやすい。そこでできるだけ本人の希望のものを取り入れ、又配膳時には食餌内容をよく説明し、聴覚、視覚に訴えた。時々面会に見えを奥さんとも協力し、しぼりたてのイチゴジュース、リンゴジュース、野菜スープ等目先の変ったものや、本人の好物で食餌に変化をつけるように心掛けた。そうした中で、味噌汁を注入してみたところ、患者は涙を流し喜んだ。

実際には食べることでできない注入だけの食餌ではあったが、目先の変化により徐々に楽しみを持つようになった。蜂蜜等を舌下にしみこませてみたが、味覚は全くなく嚥下もうまくいかず、患者自身積極的な態度を示さずかえって苦痛に思われたため、患者の意志を尊重し強制しないことにした。

## ②第二回カンファレンスに於て

体力回復は徐々に得られて来た。そして自分の将来を考える中で、患者自身闘病生活が長い為教職に復帰する希望はほとんど持っていない。家族としても、ただ家に居てくれさえすればと思っている。しかし、本人としては教職はあきらめても老後の職にと予定していた神主だけは長い間の希望でもあり、これからの生きる支えでもあるため強い希望を持っている。これらを考えてと声を失い話すことでできない患者ではあるけれども、全く断念させてしまうにはあまりにも失望が大きいのではないかと考えた。

### 看護活動

医師、看護者との話し合いにより、骨移植等形成手術の可能性もあることを患者に十分に説明し、希望を失わせないよう励した。

そして退院後もしばらくはカニューレを挿入していなければならないため本人にあったカニューレを特別注文し手軽に使用できる吸引器も購入した。又期間は長くかかってもカニューレが抜去でき、自然に呼吸が出来るようになるという希望を持ち、呼吸のしかた、発声練習を少しずつ毎日行った。

個室に居るため他の患者との接触が少く、これから将来のことも考え、大部屋に移すことも計画したが、本人と話し合った結果まだしばらくは現在のままの方がよいとのことで、様子をみることとした。

こうした中で、患者は形成術に対し希望を持つようになり、又早くよくなりたいたいという気持ちから治療には積極的であった。自分の殻にとじこもりがちになった患者をよく理解している他の患者や付き添いさん等に看護者が働きかけ、時々訪れ話し相手になったり励ましたりしたことに対し非常に喜んだ。

## ③第三回カンファレンスに於て

手術後経過も順調で徐々に退院へと希望を持っていたにもかかわらず強度の左頬部痛に悩まされ、「痛くて痛くてどうしようもないからどうかしてほしい」と頭を手で押え目には涙を浮かべて訴えて来る。最初耳下腺炎との診断であったが検査の結果転移も考えられる為、退院の見通しも暗くなっているため私達の援助がより大切な時期であると話された。

### 看護活動

最初体位の工夫、湿布、巴布等行ってみたが効果なく、内服薬、注射薬等を併用した。しかしその効果もうすぐ医師と相談し内服薬の変更をしてみた。しかしこれもあまり効果はなかった。そして転移の疑いがあるとのことでその組織検査と疼痛緩和のための神経ブロックが施行された。神経ブロックに対し患者はもちろん看護者も大きな期待をかけていたが結果は思わしくなく疼痛

軽減への運びには至らなかった。毎日激しい疼痛の為憂うつになりがちな患者に対し、看護者は努めて患者の所へ行き訴えを充分聞き、励まし転移の疑いもあることからその言動を一致させる為は何回か話し合いを持ち、又医師や家族との関係も密にし納得の行く説明が出来るようにした。又気分転かんを図りラジオ、読書、入浴等をすすめてみた。入浴は気分も粉れ、「何だか痛みも軽くなったみたいだ」と言って喜んだ。気分の良い時には面会に見えた奥さんと一諸に売店や喫茶に散歩に行ったりして気分を粉らすようになった。しかし以然として疼痛が軽減しないため病氣に対し、不安を持ち続けている。

#### 考察及びまとめ

人間が生きて行く上で最も大きな本能である経口の摂取を奪われ、そして気管切開の為意志の疎通は筆談に頼らざるを得なく、その上強度の疼痛に悩まされている。このような患者に接し私達看護者はどれ程の援助が成し得たかと思うと力の足りなさを感じざるを得ない。しかし少しでも又一步でも患者を援助出来るようにと時にはマンネリ化しがちな看護をふり返り反省し、そして前進しようと努力してきた。毎日の治療時には患者の訴えを充分聞き、表現の不充分さを補い、医師、患者との関係が密に保たれるようにと努力した。

このような中で看護のむずかしさとともに、患者への精神的な支えの大切さを知り、又家族との協力、家族への励ましの大切さを痛感した。まだまだ解決されない問題は沢山ありますが、さらに何回かカンファレンスを持ち少しでも適切な看護ができるよう努力して行きたいと思えます。

#### 整形外科

### リーメンビュージェル着用患児を持つ母親指導

発表者 岩間悦子

整形外科一同

#### 1. はじめに

整形外科外来において代表的な先天疾患の一つである、先天性股関節脱臼の過去3年間における外来患者数、44年3,003名中76名(2%)、45年2,746名中77名(3%)、46年2,565名中59名(2%)であります。新生児から1才未満の乳児まで、原則として大多数の先天性股関節脱臼の治療に、このリーメンビュージェル法が用いられております。この治療法は子供にかかる負担、侵襲を最小限度に母子、ともども「泣かせない治療」を旨としています。看護婦の指導不足のために母親にいたずらな不安を与え、母親の不安や心配は子供の治療上マイナス面が大きくなります。そのため母親指導のむずかしさと重要さを考えさせられ、看護婦として理解を深め、また母親への理解と協力を求める目的でこの研究に取りくんでみました。

#### 2. リーメンビュージェルの歴史的意義

1944年チェコスロバキアのArnold;Parblikが、リーメンビュージェル法を、乳児先天性